

「12th EAFONS 開催委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長 : 井部俊子 (聖路加看護大学) 村嶋幸代* (東京大学)
メンバー : 片田範子* (兵庫県立大学) 田代順子 (聖路加看護大学)
 田高悦子 (横浜市立大学) 堀内成子 (聖路加看護大学)
 永田智子 (東京大学) 長松康子 (聖路加看護大学)
 春名めぐみ (東京大学)

2) 協力者

有本梓 (東京大学) 渡部由美 (東京大学・事務)

* : EAFONS 理事

2. 趣旨

EAFONS (東アジア看護学研究者フォーラム) は、1997 年から東アジアで年一回開催されている看護系大学の博士課程修了生、博士後期課程大学院学生、若手教員を対象とする国際フォーラムである。東アジア諸国の研究者による講演、パネルディスカッション、そして学生も含めた口演・ポスター発表などの、意見交換の場を提供し、相互に刺激し合い、国際的視野で切磋琢磨することによって、看護系大学博士後期課程における教育内容の強化と情報の共有を目指し、各国の看護学の発展を促進していくことを目的としている。

本フォーラムは 7 カ国 (以前は 6 カ国) の持ち回りで開催されている。このたび、2003 年の第 6 回に続き、日本が開催国になったのを受けて、2009 年 3 月 13 日 (金)、14 日 (土) の 2 日間に、日本看護系大学協議会の主催で、聖路加看護大学において The 12th EAFONS を開催する運びとなった。本委員会は、The 12th EAFONS の企画・運営について検討し、実施することを目的として組織された。

3. 活動経過

博士課程を有する会員校に対し、拡大準備委員の選出を依頼し、5 月 23 日に EAFONS 拡大準備委員会を開催した。拡大準備委員としては、最終的に 30 名の協力を得た。6 月にはコンベンション会社 (勁草書房) を選定し、ホームページ開設・演題登録・広告募集等の準備を開始した。8 月 20 日に公式ホームページがオープンし、演題募集を開始した。

演題登録については、11 月 14 日の締切までに 219 題の申込を得て、会員校への呼びかけに応じてくださった査読委員 64 名のご協力により、査読を行った。

当日は、キーノートセッション、パネルディスカッション (2 題)、口演 (15 セッション 71 題)、ポスター (110 題) の発表が行なわれ、活発な討論が行なわれた (資料 1)。キーノートでは、主に日本における博士課程教育の成果と課題の現状、および、今後の看護学博士課程教育のあり方が提示された。それを受け、パネルセッション 1 では、看護学の博士後期課程の各国の現状と今後の展望について、ポストドクトラルスタディに関する状況

も踏まえて情報提供がなされた。臨床技能、研究の臨床への活用、研究技術の 3 つのバランスをどのようにとるか、ヘルスケア政策など従来の臨床知の開発にとどまらない研究・発言への課題など、今後の看護学の発展に向けた現状と課題が、パネルによる発表とフロアからの発言によって検討された。

パネルセッション 2 では、看護学の博士後期課程の発展に向けて、パネルからの提案と会場からの意見、今後の国際交流などについても言及された。「学生たちの力は我々の持つ以上のものである。国際的な場での発表や投稿は、カリキュラムの一環とすることによって促進される。しかし一方それを推進するための研究科としてのサポートシステム（研究費や渡航費補助等）の整備が必要である。」という意見などが出された。

一般演題を国別で見ると、台湾が 73 題と最も多く、開催国である日本からの 66 題を上回った。このうち、海外の学生による発表については、委員会メンバーによって構成された選考委員により、優秀な 3 演題が選ばれ、Award（賞状、副賞 2 万円）を贈呈した（資料 2）。

学生ミーティングについては、2 名の博士課程学生に企画を練ってもらい、情報交換や親睦の機会となるよう、複数の領域に分かれて自由な話し合いの場を持った。実施に当たっては、博士課程をもつ各大学から応募した学生ファシリテータ 7 名の協力を得た。4 部屋で実施し、それぞれ各国からの 20 名近い参加があり、学生間の貴重な交流の場となった。

同時進行で、EAFONS の executive meeting が開催され、各国の EAFONS 理事が集まり、今後の EAFONS の方向性などについての話し合いを行なった。日本からは、片田範子理事・村嶋幸代理事が参加した。また、オブザーバーとして、田代順子前理事、および、中山洋子次期日本看護系大学協議会会長が参加した。

参加者数は 307 名であった（資料 3）。当日の運営に当たっては、委員・協力者のほか、教員のボランティア、および、学生アルバイト約 30 名の協力を得た。会場となった聖路加看護大学の全面的な協力の下、会は円滑に運営された。

本フォーラム実施に当たっては、厚生労働省、文部科学省、日本学術会議、日本看護系学会協議会、日本看護協会から後援を頂いた。テルモ科学技術振興財団および三共生命科学振興財団からの助成を頂くとともに、抄録集へは医学書院、南江堂、Wiley-Blackwell からの広告を掲載した。

以上の通り、多数の方々のご尽力を得て、本フォーラムは盛会のうちに無事終了した。

4. 今後の課題

次回（第 13 回）の EAFONS は香港で開催される。本委員会は単年度で終了するが、今回の資料を整理し、来年度及び次回の日本開催時に活用できるよう、引き継いでいく。

EAFONS の Executive Committee Meeting について、日本からは看護系大学協議会が組織として理事を継続して出していくことが決まっている。今回、台湾からの発表が主催者の日本を上回っていた。本協議会としては、博士後期課程の質の向上を図るとともに、EAFONS を博士後期課程の 1 つの教育ツールとして位置づけていくことも考えられる。将来的には、博士課程の Global Standard に向けた取り組みを検討していくことも必要であろう。

5. 資料

資料 1 : プログラム

Keynote Session

“Doctoral Education in Nursing: Progress, Contributions and Challenges”

Speaker Sachio Murashima Japan

Moderator Yoko Nakayama Japan

Panel Session 1

”Share in the Ideal Model for National and International Contribution through Doctoral Education in Nursing and Clearly Explain Ways to Achieve Effective Outcomes Using Examples”

Moderator Noriko Yamamoto-Mitani Japan

Panelist Meyrick Chow Hong Kong

Panelist Rutja Phuphaibul Thailand

Panelist Debra Creedy Singapore

Panel Session 2

“Explore Future Directions in Doctoral Education to Achieve the Global Goal”

Moderator Noriko Katada Japan

Panelist Junko Tashiro Japan

Panelist Shu, Bih-Ching Taiwan

Panelist Carmelita Divinagracia Phillipine

Panelist Soon Nyounng Yun Korea

Oral session (71titles)

Moderators

Oral session 1 “Chronic illness nursing” Chieko Greiner

Oral session 2 “Maternity health nursing” Mayumi Tsutsui

Oral session 3 “Critical/ acute care nursing” Akiko Kondo

Oral session 4 “Community health nursing” Kiyoko Makimoto

Oral session 5 “Nursing theory/ ethics/ education” Misuzu F. Gregg

Oral session 6 “Nursing management” Minako Sasaki

Oral session 7 “Geriatric nursing / home nursing” Takiko Hosoya

Oral session 8 “Maternity health nursing/ nursing graduate education” Akemi Yamazaki

Oral session 9 “Chronic illness nursing” Natsumi Morita

Oral session 10 “Psychiatric & mental health nursing” Yuki Miyamoto

Oral session 11 “Nursing management/ community health nursing” Mikako Arakida

Oral session 12 “Cancer nursing” Mitsuko Inayoshi

Oral session 13 “Child health nursing” Rina Emoto

Oral session 14 “Chronic illness nursing” Toyoaki Yamauchi

Oral session 15 “Psychiatric & mental health nursing” Mami Kayama

Poster session (110 titles)

Students’ meeting Organizers: Erika Ota and Miho Takami

資料2 Award 受賞者 (海外からの参加者)

The 12th EAFONS Outstanding Presentation Award

O-3-5 **Huan Fang Lee**, Institute of Allied Health Sciences, College of Medicine,
National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan
“APACHE as a predictor of neurosurgery ICU readmission: a case control
study”

O-5-5 **Michiko Yahiro**, School of Nursing, The Hong Kong Polytechnic University,
Hong Kong
“Japanese cancer patients' perception of negative nurse practices that fail to
meet the threshold of good”

The 12th EAFONS Outstanding Poster Award

P-2-18 **Chia Chi Lee**, Institute of Medical Sciences, Tzu Chi University, Hualien,
Taiwan

“Comparative study of the pain experience among the different ethnic groups in
the eastern of Taiwan”

資料3 参加者数

		事前登録	3月13日	3月14日	計
海外	Faculty	40	28	0	68
	Students	79	1	0	80
日本	Faculty	84	1	7	92
	Students	50	15	2	67
	合計	253	45	9	307

faculty 合計 160

students 合計 147

資料4 写真

受付および会場の様子。初日の受付は混みあった。



オープニングセッション。井部会長による開会の挨拶、南裕子 ICN 会長による祝辞。



キーノートセッション



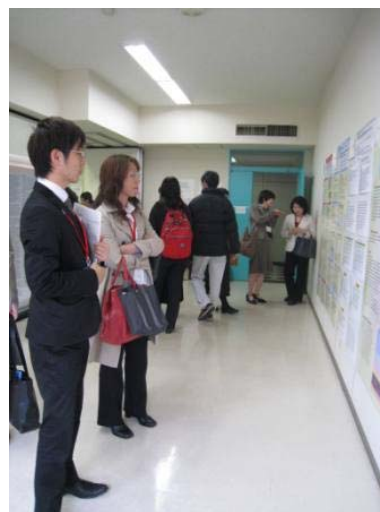
パネルセッション 1



オーラルセッション



ポスターセッション



学生ミーティング



EAFONS 理事会



レセプションは参加費無料だったこともあり、大盛況であった。



ランチ。海外参加者には（荒天の 2 日目には日本人にも）無料のランチが提供された。



パネルセッション2



クロージングセッションにおける Award 授賞式



次回開催の香港の EAFONS 理事による挨拶、および、村嶋共同世話人からの閉会挨拶。

